



水稲
 田代 好幸
 農畜産課
 0969-22-1105

① 水田除草剤の適正使用

水田除草剤の製品に貼付されているラベルには、効果や薬害、残留性等から設定された使用基準や使用上の注意事項が記載されています。その内容を遵守して使用してください。田植え後5日～15日に初中期除草剤（プライオリティ剤）を散布し、5日程度の湛水状態を確保してください。これは、安定した除草効果が得られるばかりでなく、用水路・河川への除草剤成分の流出を防止するためにも重要となります。

注) 藻類対策のモゲトン粒剤を散布した場合は、2回目の中後期アトリ粒剤は使用できません。どちらか一方の除草剤を選択して使用してください。

② 有効茎数の確保と中干し

除草期間が終了したら、暖かい日中は、有効茎数を確保するために浅水管理で分けつの促進に努めてください。1株の茎数が18本程度確保できたら中干しをしましょう。(中

干し期間は、5月10日頃から10日間程度です)

また、水管理を容易にするために、中干し前の土が軟らかい時に「溝切り」をしましょう。

③ 中間施肥(高温障害・倒伏の軽減対策)

中干し前に、けい酸加里又は、サポートセブンを10㎡当たり20kg程度を施用することで、茎や根が丈夫になり高温障害・倒伏の軽減が期待できます。

④ 病害虫防除

葉いもち・紋枯病の予防対策として、中干し前または中干し後に「オリブライト剤」を散布してください。(散布後7日間は落水しないでください)

また、畦畔の除草による耕種の防除に努めましょう。

※補植苗は、病害虫の発生要因となりますので、早めにはほ場から取り除きましょう。



果樹
 原口 悠貴
 下島営農指導センター
 080-2725-7775

1. 病害虫防除

対象病害虫	品種	農薬名	希釈倍数	備考
そうか病	温州	デランフロアブル	1,000倍	4月上旬(発芽3mm頃)
かいはう病	中晩柑	コサイド3000 加用 クレフノン	2,000倍 200倍	開花前
訪花害虫	全品種	モスピランSL液剤	4,000倍	開花期～満開期(5月上旬～中旬)
灰色カビ病	全品種	ファンタジスタ顆粒水和剤	4,000倍	開花期～満開期
ホコリ・サビダニ、カイガラ類	中晩柑	モベントフロアブル	2,000倍	開花盛期～落弁期
黒点病	全品種	ナティーボフロアブル	1,500倍	落弁期～一次落果期

※そうか病、灰色カビ病対策でフルーツセイバー1,500倍も使用可。
 ※ケシキスイ類・コアオハナムグリはエクシレルSE5,000倍も使用可。
 ※モベント(F)で皮膚炎等の恐れがある場合はアグリメック2,000倍を散布。

2. 施肥

栽培タイプ	肥料名	施肥時期	品種名	10a当たり
通常タイプ	果樹専用スペシャル 又は 果樹専用「極」	4月上旬	デコボン	5袋
			河内晩柑・清見 甘夏・パール柑	4袋
			ポンカン	8袋
		4月中旬	極早生温州	6袋
			早生・中熟 普通温州	8袋

3. 葉面散布

まずは樹勢を回復し、その後花芽分化促進をしましょう。

目的	薬剤名	希釈倍数	備考
樹勢回復	尿素 又は ニュージューシーN14 又は神協スピリッツ	500倍	いずれかを 使用ください
花芽分化促進	ジューシーエース	500倍	
緑化促進	葉面マグ	200倍	





早期の妊娠鑑定について



畜産
園田 遼海
農畜産課
080-1795-9380

直近の子牛相場価格は、ここ数年でもかなり高い水準で推移しています。そんな中、繁殖農家の利益の根幹となる子牛の「分娩間隔が長く」なればどれほどの損失となるか、今一度考えてみましょう。

現在、妊娠鑑定には様々な方法があります。発情回帰の有無を観察するノンリターン法、直腸検査(触診)、超音波検査(エコー)などです。この中でも超音波検査や一部の検査法は、授精後30日頃からの鑑定が可能とされています。早期に鑑定を行い、不受胎牛を発見できれば、すぐに次の授精を行うことができ、空胎期間の短縮、繁殖効率の向上が見込めます。

例えば、授精後35日頃に不受胎牛を発見できれば、数日後に2周期目の発情が来る可能性が高いため発情観察に注意することができ、そのまま授精すれば最小限の時間・経費のロスで済みます。

逆に、空胎期間が延長した場合の影響を大まかに考えると、まず餌代等の管理費用が掛かります。また、空胎期間の延長で出荷できる子牛の頭数が減ることによる損失もあります。この2つの要因に絞り、分娩間隔が1日延長することによる母牛1頭あたりの損失を計算すると右の表のようになります。

一日管理費用 子牛価格(生後300日での出荷で計算)

	¥400,000	¥600,000	¥800,000
¥500	¥1,833	¥2,500	¥3,166
¥1,000	¥2,333	¥3,000	¥3,666
¥1,500	¥2,833	¥3,500	¥4,166

例えば、1日の管理費用が1,000円で子牛相場が60万円の場合、空胎期間が1日延びると母牛1頭あたり3,000円(60万÷300日+1,000円)の損失となります。もし1周期分あるいは数頭の空胎期間が遅れば、さらに大きな損失になります。

あくまで大まかな計算ではありますが、その影響は非常に重いものです。逆に言えば、空胎期間を短縮することが出来れば、経営にとって大きなプラスになり得ます。

経費も子牛相場も高い現在、少しでも空胎期間を短縮することが重要です。家畜保健所による繁殖牛検診では、エコーを使った早期健診も可能です。早期で妊娠が確認できても胚死滅により妊娠が維持されないこともありますので、再鑑定は必要ですが、重要なのは不受胎牛の早期発見・改善です。繁殖牛検診を積極的に活用し、経営改善に役立ててください。

Q&A

JA営農指導員がお答え! /

ご質問コーナー

Question and Answer



Q 「夏野菜の育て方」：毎年トマトが熟す前にしおれるのはなぜですか？

A 原因はいくつか考えられます。

まず、トマトの葉など全体がしおれるのか実がしおれるのかで対策が異なります。

葉は青いのに萎れるのであれば青枯病(土壌病害)、葉が黄色くなり内側に巻いてどんどん成育が悪くなり枯れるのであれば黄化葉巻病(コナジラミが媒介するウイルス病)など、原因は様々です。

近年、夏場の温度が上がり過ぎているため、実が直射日光に当たっていると、煮えた状態になり実が萎れます。

40%程度の遮光ネットで屋根掛けしたりするなどの対策がいいかと思えます。